同窓会報
（第36号）
発行所 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
県立千葉高等学校同窓会
印刷所 千葉市中央区都町1-13-16
TEL. 043-233-9671
有限会社 プリントピア

出会い

同窓会会長　霜　礼次郎

昨年末に、我々三十一年卒業組は、卒後五十周年を記念して集まった。お互いに元気でここまでやって来られた事に、一同感謝しつつ語り合った。五十年前千葉高を卒業して、各々の道に分かれて頑張って来た満足感を味わう事ができたに違いない。

〝その原点は千葉高に在り〟

私事で申し訳ありませんが、小生70才を迎えるにあたり、標記の「出会い」と言うテーマで、過去を振り返ってみると、その時々に出会った世の先輩方々の影響を受けている。その先輩の言葉や生き方など、如何に出会いが大切であるか。そして、その技量は純粋な感覚で捉える事ができた。又、その情報を自分の記憶の一つとして保存する事もできた。

一、千葉高時代

一年生の時に剣道部が復活し、中学校時代の友人と共に入部。

当時、日本の剣道の達人の糸賀憲一先輩と巡り会い、将来剣道の日本一になりたいという夢を持つ事ができ、毎日稽古のプログラムを実践し、県代表となり関東大会に出場する。

この時の、高等師範出身の糸賀先輩という日本一の剣道家との巡り会いにより、その合理的な理論は、小生の一生涯の目標となった。その上、日本の「武道」という文化に触れました。

二、東京慈恵会医科大学

学祖高木兼寛先生の言葉として、「病気を診ずして、病人を診よ」の基に、整形外科教室に入局、当時片山良亮先輩教授の元で研修、当時日本はもとより、世界一の医術と治療システムの教育を受ける事ができた。

西洋文化である医学の現場を、この目で見たくなり、ノーベル医学賞の選考機関、スウェーデンのカロリンスカ大学、医学物理研究室に留学した。

「世界一」とは何かを見る事ができた。

三、開業医時代

―スポーツドクターとして―

父が倒れて家業を継ぐ。間もなく剣道でアキレス腱断裂、竹刀を銃に持ち換えて射撃に転向し、射撃道を修得。全日本クレー射撃選手権大会で優勝、一九八十年のモスクワオリンピック候補選手となるも、日本は大会をボイコットし幻のオリンピック選手となる。

日本体育協会にスポーツドクター制度を立ち上げ、勝つためのメンタルトレーニングの導入に着手、アメリカの射撃の世界チャンピオンに出会い「勝つ」ための行動科学と成功哲学を学んで、カルチャーショックを受けた。

日本文化の「武道」とオリンピックの「勝つためのトレーニング」をドッキングさせた理論を構築。ロス・オリンピックでその花が咲いた。ピストル競技で初の金メダルを獲得

した。

バルセロナ・オリンピックにはドクター監督として出場、クレー競技で銀メダル一つ、ライフル競技で銅メダル一つ獲得する。

勤勉で器用な日本人の活躍が、世界から期待される時が来た。

そろそろ若い人達にバトンタッチしよう。二十一世紀を背負い、世界に発信する後輩に期待をかけて……。

（三十一年組卒後五十周年記念文集原稿より）

雑感

校長　大野敬三

昨年秋、「必修漏れ（逃れ）」といい、学習指導要領に示された必履修科目を履修していない高校があることが判明、問題となりました。全国四六都道府県公立三七一校私立二九二校、合計六六三校において行われていたということです。特に進学校といわれる学校に多く、新指導要領の実施に伴いその数が増加していたと報道されました。

文部科学省では、生徒に罪はないということで補習等によりその履修・単位の修得を認めることとし、その他はその後の対応が待たれることとなりました。

本校については、千葉高校は絶対に行っていると思っている人、また、行っていないと答えても疑心暗鬼の人が多くいたように思えます。新聞記者も再三再四取材にきました。

すでに同窓の皆様は御存知のことと思いますが、本校は重厚な教養主義を目標に日々の授業を実践しており、生徒にいわせれば、直接受験に関係しない教科、科目を多く行っている楽しい学校ということになります。今受験のみに走り高校時代に身に付けるべき能力、知識、技能等が不足していて、大学生になっても本当の力が付いていないなどといわれています。そこで本校では、一教科一科目でも多く学んでもらい真の実力を養ってほしいと考えているからです。当然「必修漏れ」ということはないということです。

千葉県の公立高校には「必修漏れ」がないこと、その中で、本校生徒の真の努力によって、結果として全国有数の進学校と肩を並べ大いなる実績を上げていることに、改めて、誇りを感じ生徒一人ひとりの頑張りをほめたいと思います。

この問題については、「正直者が馬鹿を見ることのない」よう国レベルでの対応を是非期待するとともに、本校生徒が今後とも自信と誇りをもって学んでいけるよう一層努力していきたいと思っています。引き続きの御理解、御支援をお願い申し上げます。

次に毎回報告しています本校の学校再編について記します。

まず定時制について、今年度は現生浜高校で入学試験を行い次年度から三部制定時制の一年生を迎えることとなります。千葉高校では入学試験は行わず次年度は二年生以上の三学年となります。そのため、本年度は現生浜高校に三部制開設準備室を移し、準備室員を配置し鋭意準備を進めてきました。その進捗は必ずしもすべて順調とはいえませんがほぼ予定どおり進んでおり、本校の在校生の転学に向けての指導も確実に進めているところです。

全日制については、今年も県立学校改革推進課に開設準備室を置き作業を進めてきており、昨年秋に校名、コンセプト等に

ついて役員の皆様から御意見等もいただいたところです。

進捗状況ですが、施設整備については今年度予算要求をしていて、開校時は現校舎の一部改修で対応することとなるのでないかと思われます。

教育内容等については、コンセプトの決定をまって、これに基づき次年度一年でその具体的内容等が固められることとなります。また入学者を決める適性検査については、予想以上の応募者が集まることも考えられ、現在その内容についての検討が進められています。

このように、準備については全体として甚だ遅れているところですが、昨年九月議会において県教育長が二〇年開校を目指していると答弁されていますので、今後、急ピッチで準備が進められることと思います。本校も学校をあげて準備を進めてまいります。

さて、私は早いもので今年度で四年目を迎え定年となります。

皆様の御期待に添えたかどうかは不安ですが、私にとっては多大な御厚情のもと、伸び伸びと仕事をさせていただいたと感謝しております。残り少なくなりましたが、本校職員と一丸となって努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。

今年度の目標は 会員の集う場確保と 同窓会講演会の充実

同窓会事務局長　阿佐幸雄
（昭和三十五年卒）

昨年の理事会で霜会長から同窓会事務局長を拝命致しましたが早いもので一年になります。

二年前に百二十五周年記念事業の事務局長として「同窓生が集う場所を」という文を本紙に書きましたが、残念ながらまだ何も実現できていません。

何とか今年度は同窓生諸兄姉が集える場所づくり実現の第一歩を記したいと考えていますが、何とぞ知恵をお借し下さい。

平成十八年度、同窓会で新たに実施したことがあります。

百二十五周年記念事業の一事業として、同窓会による講演を行ないましたが、学校からの要望があり「同窓会講演会」として実施しました。

まず六月に一年生に対して、総会担当年度の昭和三十九年卒から講師を出して頂き講演会を行いました。

十月には二年生を対象にした講演を行いました。これは記念事業で同様の企画をコーディネートした昭和五十七年卒の豊田聡さんにお願いしましたが、八～九名の職種の違う講師による分科会方式での講演会で、講堂で講師紹介を行なった後、教室に分かれて講演を行い、生徒たちは各自聞きたい講師の話を聞くというものです。

この分科会方式の講演会を記念事業で二年間行ないましたが、生徒にも大変好評でした。

今回も五十七年卒の方々による実施となりましたが、母校のためということで、平日の午後に休暇を取って講演をして頂いていますが、働き盛りの方々ばかりなので、仕事との調整が大変です。今年度は講演会企画委員会が立ち上がりましたので、講師をお願いする年度も広げたいと考えています。

記念事業で母校に少しは役立つ同窓会になったと自負していますが、在校生にも認識される同窓会を目指すということも有意義ではないかと思います。

学校にも在校生に対しても、今まではあまり形になるものを行なっていません。卒業する生徒に卒業証書用の「筒」を贈呈することと美術館への資金提供だけでしたが、本年度行なった同窓会講演会は今後も続けて行く価値あるものと考えます。

この講演会がより良いものとなるよう、講演会企画委員会をさらに充実し努力してまいりますので、同窓諸兄姉の一層のご協力を切にお願い致します。

学年短信

●昭和八年卒

安田　衛

昭和八年卒の昭八会は十一月十八日㈯千葉駅前の「日本海」で行われ、遠藤健郎、大木亮喜、加地禮太、安田衛、山口董平の五名が参加し、吉野平八郎君が風邪のため欠席したのは残念でした。

卒業してから七十三年が経過したが元気に過ごせたことを一同喜びあった。往時の西村房太郎校長先生や早崎先生、矢沢先生を思い話はつきなかった。

中高一貫教育について、又中学校の名称についても議論された。午後三時散会した。

以上

●昭和十一年卒

佐瀬喜一

昭和十一年三月、一七四名の卒業生の集い〝土葉会〟も、出席者の漸減により、やむなく閉幕して数年。生き残った同志でお互いに連絡をとり合い旧交を暖めていたのであるが、昨年暮れの長谷川泉君の他界につづいて今年初め、山本岩藏君の逝去に会い、暗然となった。

……思えば第一回の〝土葉会〟を母校の今はなくなった図書館（現在は立派な図書館にかわっているが）で開催、四十八名の出席者で満席になったことを懐かしく想起する。だが生き残った同志も、そろって米寿（八十八才）を迎えた。お互いに一日一日を大切に、残り少なくなった人生を、往時をしのび、心ゆたかに過ごしていきたいと念願している。

●昭和十二年卒

古川　芳

平成十九年三月で、千葉中卒後満七十年。卒業生百六十九名、戦争で二十名近くが亡くなりました。生活が安定してきた昭和二十五年頃から、私達同級生の会も、十二会と名付けて一年か二年間隔で実施してきたが、最近は亡くなられたり、病気中の者が多く、平成十五年十月に京成ホテルに於いて、実施致しましたが、出席者は十二名と少なくなり、やはり十路越えたせいかなあと心細くなりました。

その後常に十二会の運営をしていた幹事が亡くなり、又病気になったり、そして私も平成十六年に五ケ月、十八年に三ケ月の入院生活で、退院はしたものの現在も歩行困難という状態です。

自室のベッドで、テレビ放送を見ながら、平成十八年全国高校野球大会（甲子園）の決勝戦に、早実と駒大苫小牧の試合で感激し、私達が五年生の時、昭和十一年の関東中等学校野球大会の決勝戦で、早実と対戦、延長戦で四対三で優勝。学校中の職員生徒を驚かせました。この時七名の同級生が居り、飯島（プロ野球で一試合十一打点の記録を作る）、岩井（習志野高校で十年間コーチをし、甲子園の全国大会で二回優勝させる）、巻口（投手として千葉中の全試合を投げた名投）ら三人を含む、七人とも亡くなってしまいました。そして各運動部の活躍を思い、更に転じて一月の厳寒の季節に朝六時からの柔道、剣道の寒稽古、こんな事を思い出しながら、十二会で話し合えたらと思い、病気と闘う日々が現状です。

●昭和十三年卒

鈴木尚純

いざや会の総会を五月二十五日船橋の稲荷屋にて十二時半より開催しました。出席者は九名で大方きまった顔ぶれで、一、二名体調をくずした人もいたが、回復して出席され久し振り楽しい時を過ごした。特に名誉会長の石原眞君は家族のご不幸があったにも拘らず元気に地元の老人達の医療に専念されている姿勢に大いに勇気づけられました。尚本年度は更に新幹事原田正夫君の御骨折りにより十月

五日にホテル〝プラザ菜の花〟でいざや会を開催した。出席者は九名とのことでした。小生会社のOB会に出席のため欠席。

●昭和十七年卒

早山卓夫

顧みると全員が八十才を超えていながら会を開くと元気な顔が揃って心配など忘れ上下の学年で会の開催をやめた話などをききながら、不惑を二回も越えたのに今年も十一月二十五日に例年どおり千葉駅ビルで開催した。三十一名が出席し、それぞれ数分ずつ近況報告等をしたあと懇談を重ね、極めて元気で楽しい会でまだ毎年行いたい様子であった。

毎回遠くから来てくれる人が体調不良で出席できず、近くても出られないで残念な人もあり、思いがけない人の不幸なニュースをきいて心を痛めることもあった。中には年令に似合わず、毎年若々しい顔をみせてくれる者も多く心強い一面もあるので、よく状況をみながら今後のことを考えたいと思っている。

●昭和二十年五卒（新葉会）

松崎一康

一　阿の会　＊平塚和夫・伊藤昭一郎・海宝豊徳（会長）などの仲良しグループ「あの会」が発展して新葉会の母胎となる。＊伊東良順の梵語の第一字母の「阿」が相応しいとの提案で現会名に。節目毎に同期生総会開催。次は傘寿の会。これまでに相川喜久・千代岡彦次・行木新の諸君も他界し、現在十三名。足木茂和の世話で隔月に会合、内九名は毎月囲碁会（一回宿泊大会）を。（＊故人）

二　房総西線会　西線通学市原郡関係者中心。現在十八名。足木を中心に斎藤雅次・矢代利が幹事役。二、三年毎に開催。古希からは地挽茂夫、斎藤雅次、足木茂和の叙勲祝賀会も兼ねて盛会。十一月十九日、八幡宿に十名集合。今後毎年開催を誓う。これも、新葉会の源流の一つ。

●昭和二十年四卒　禄寿会

吉田昭三

卒業して何年たっても千葉高のことがいつも頭の中から離れません。不思議なもので大学の合格状況が週刊誌に掲載されるころになると、毎年購入し胸を轟かせて千葉高の文字を探し、上位にあると手をたたいて喜び、下位にあるとションボリしてしまいます。私は千葉高の坂下の長洲に住まっている関係で、朝の散歩のコースは自宅から千葉城を経由して千葉高の裏門から講堂の入り口前を通り、玄関前から坂を下りることが多く、千葉高の登校する生徒と行き交い元気を貰っています。実は本日、自宅のある長洲町内の会合で昭和十四年卒の三宅氏から千葉高の前身である千葉中は昭和九年以前に旧制高等学校に昇格する計画があって、現在ある講堂は旧制高等学校にする計画のなかで建築されたものという話を聞きました。在学当時、講堂が本校舎と異なる風格を感じておりましたがその理由が分かったような気がします。この話は本誌に書き留めておかねばと思い、原稿を急遽、少し変更して書いた次第です。千葉高が中高一貫教育校として更なる発展を祈っています。

●昭和二十一、二十二年卒

斎藤喜久三

傘寿を目指し頑張ろう

雨が降っても槍が降っても毎年続けている恒例の六月第一土曜日に「みどり」で開催、卒業六十周年を迎えた元気印の三十五名が参加、残念乍ら昨年喜寿を過ぎてから各兄体力の衰えを実感、体調不良で常連の欠席が目立つ、しかし乍ら欠席者のうち七十名近い各兄が分担金を送って応援してくれ、次回は必ず出席するぞの固い絆は我が年度の自慢である。本年は毎年出席下さる安西先生が腰痛の為欠席され誠に残念、しかし乍ら「永

年の腰痛は平熱の様なもので9月には目標二十二万粁迄あと六百三十粁でウォーキング達成」との励ましの通知を頂き一同兄貴先生こと早川先生の発破に驚き、またまた元気を取り戻した次第です。何はともあれ酔いが回るにつれ気焔が上がり標記の平成二十年傘寿同期会には今から記念誌の発行を予定し全員の健康と再会を約した。

安西先生には九月八日に逝去されましたが、我が同期生は戦時中勤労動員で飛行機工場で働いた時、本校に赴任間もないのに引率教諭として父親の様に面倒を見て頂き、現在迄六十年以上に亘りました。本年逝去の幹事内藤吉昭君と併せて

合掌

●昭和二十三年卒、二十四年卒（葛城芙美葉会）

安田敬一

恒例の芙美葉会、今年は一週間早く平成十八年四月二十二日㈯に開催されました。

プラザ菜の花に、恩師安西、早川、篠崎三先生もお元気で出席いただき和やかな楽しい同期会となりました。

天気も快晴、幹事も渡部正男君をはじめ接待、高澤、森、越川、植草君そして新しく武藤君も加わり格調高い同窓会でした。

併し、会が終わり、余韻を残している秋の季節、安西七郎先生の御逝去の報に接し、心から先生の御遺徳を偲びつつ、御冥福を祈るものです。

一方、朗報としては、毛利秀雄君が栄えある瑞宝重光章受賞が秋の叙勲で発表され、嬉しいことでありました。毛利君は今でも国際生物学オリンピック日本委員会の委員長として更なる活躍を期待されており同窓として心から声援を送る次第です。

●昭和二十五年卒

矢島　肇

いろいろあった平成十八年も残り僅か。再来年は揃って七十七歳、四月二十九日には四年振りの会、差詰め〝喜寿を祝う同期会〟となる。が少し間があるせいか、このところ頓に交遊会が盛んだ。ゴルフ会、旅行会、友人主演の観劇会、叙勲祝賀会に加え自分史、旅行記、写真集等の自費出版と賑やかである。これも健康の証として乱ばしい限りだ。その半面体調を崩されている友も多い。既に亡くなられた友も七十名を越えた。幸いというか本年は一名だけの訃報で済んでいる。しかし、恩師安

西先生が逝去され〝お別れの会〟へ三十数名参列し別れを惜しんだ。「いいか!!次回同期会は私も必ず出るから皆んな全員出席!!」その先生が亡くなられた。

●昭和二十六年卒

久山　敬

平成十八年十月二十八日㈯正午から二十六年卒の同窓会がスカイウインドウズ東天紅で開催された。出席者五十五名。

永野剛君の司会で会は進められ、相変わらず若々しくお元気な早川先生のご挨拶のあと、はるばる九州、久留米から参加してくれた谷川久一君の発声で乾杯、会場の方々で歓談の輪ができた。途中「四街道デルソールマドモアゼル」によるフラメンコダンスも入り華を添えた。会の終了に当り、千葉中校歌、千葉高校歌、戦歌、凱旋歌の斉唱では、小出香君のリードにより数名が壇上で声を合わせ、更に早川先生も加わっていただき大いに盛り上がった。次回は二年後に開催すること、それまで一同元気で頑張ることを確認して十四時散会した。

●昭和二十九年卒（福の会）

萩原　健

私達は、一昨年古希を迎えたがこれからの人生を余生ではなく新たな人生へのチャレンジの時と前向きに捉え、信念と希望を高く掲げて、力強く進んでいくことを誓い合った。

中村世話人会代表を中心に、赤木、植草、小野口世話人の積極的な活動により、本年も数多くの行事を開催して、会員同志の親密な交流を図った。

一、六月二十四日 福の会総会
於ぱるるプラザ千葉
出席者五十七名
早川、稲葉両恩師ご出席のもと大変盛り上がり二次会にも三十数名が参加して、楽しい一時を過ごした。

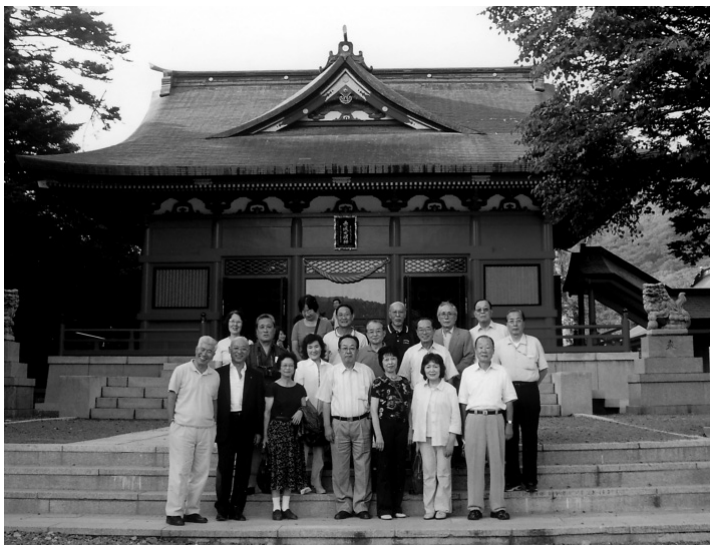
一、九月十日～十一日
「老神温泉」一泊バス旅行
参加者早川先生ほか十八名
天候に恵まれて、草木ダム、吹割の滝、金精峠、日光等和気藹々の中に初秋の旅を満喫した。

一、十月十九日東京葛城会
於上野精養軒
当会出席二十四名

一、十一月八日ゴルフコンペ
於イトーピア千葉コース
早川先生ほか十二名参加
（うち女性二名）
優勝小川桂一（元野球部エース）

一、予定十二月二十二日忘年会
於Jシティ田町
来年度も更に充実した行事計画を練り上げて、温り溢れる親睦を重ねていきたい。

母校も、学校再編にむけて、大変厳しい時期にあるが、安易に教育庁に追随することなく、本校独自の、現場の課題を明確にして、毅然とした対応を講じることにより改革を成功させて欲しい。そして、千葉県のトップ校としてのプライドと自負のもとに、万全の努力を尽くすよう強く切望する。



「赤城山頂上にて」老神温泉１泊旅行

●昭和三十二年卒

井谷延夫

我々三十二年卒の同期会は、運動部など出来の悪い連中が、中心となり、卒業時に四年後の再会を約束したことから始まった、三十六年の夏、第一回を、正木屋の二階で開き、その中で遠方に行っても、必ず帰ってこられる正月にやろうと、決めたことから、翌年の三十七年一月二日の二時に開催し、その後、今日に至る迄、毎年、新年同期会として行なっており、最低でも四十数人が集まっている。又、五年ごとに、五周年記念の同期会を夏に開催しており、平成十九年は、卒業五十周年記念となる。どのような記念同期会にするか、今から、仲間と相談し、企画準備をしていきたい。

●昭和三十四年卒

中村好成

恒例の34会ゴルフコンペを、あのブリジストン、オープン直後の十月二十六日に開催。いつものことながら、牛島、橋両君のサポートを頂いて、実施できました。参加者は、十六名と、いつになく少ない大会でしたが、早川先生にご出席頂き、楽しい一日でした。優勝は、伊藤貞雄君、グロス89、ネット66は、立派なものでした。次回は平成十九年五月十七日㈭新袖コースで開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

●昭和三十五年卒（珊瑚会）

中村重春

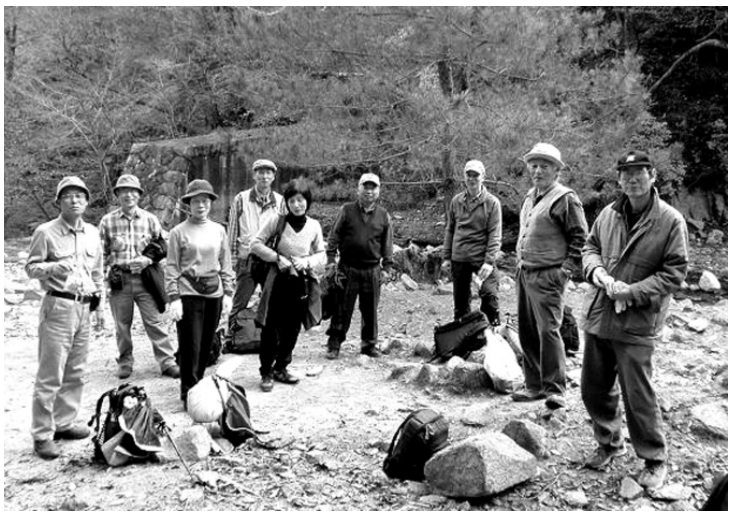
珊瑚会の中に探美会という大層立派な名前のバーチャル集団があり、毎月一回、男女十名ほどで近郊に出かけています。

大抵は季節の花目当てのハイキングで湘南丹沢に行きますが東京散策と称して江戸名所めぐりやレインボーブリッジ歩き、さらには美術館、水族館、観劇など、何でもありの気安さで四年間も続いています。

きっかけは同期の三人が始めた美術館めぐりでした。珊瑚会の仲間を増やそうとEメールで呼びかけたところ、三十名も賛同してくれたまでは良かったのですが、たちまち

「美術館なんか面白くないよ」という外野の声に押されて、

「美酒も美食も美のうちだし」と譲歩したのが迷走の始まりでアッという間に郊外散策プラス居酒屋の会に変身して五年目を迎えたというわけです。



会費なし、会則なし、参加義務なし、リーダーさえ居ないのが受けてか、会員は今や五十数名ということになっています。

ただし半数は一度も参加しない名誉会員？なのと、気が向いた時だけ参加する方式なので、参加者は毎月十名前後というところです。それでも、男女混合の普段着の付き合いが楽しく、電車でも歩くときも居酒屋でも話題の途切れない平均年齢六十五歳のバーチャル集団です。

●昭和三十六年卒

田那村　宏

今年、私達は六十五歳、それぞれの歴史を刻んでいます。昭和三十六年は、三年後の東京オ

リンピックに向け国は明るい未来に向け邁進していた頃でした。昨年十月二十八日、卒後四十五年の同期会総会を開催。七十余名の出席の中、再会を暖めた。また前田浩一氏の紹介のニューフィル千葉「ピアノ三重奏」（ヴァイオリン・チェロ・ピアノ）の演奏も加わり、心地良い雰囲気で大層楽しい会となった。母校、元数学教師、故旭爪先生の話題が久し振りにあり、飯高茂氏「いいたかないけど数学者なのだ」の著書に出てくるそうです。乞うご期待。今年は「修学旅行コース再現バスツアー」の企画が予定されています。多数の同期のご参加を待っています。

●昭和三十七年卒

駒井隆子
朝生邦夫

◎今年も三七会の活動は、多方面に活発に展開されました。

「三七で歩く会」は、浅間外輪山黒斑山・高峰山登山をはじめ、南アの荒川三山～赤石岳縦走など、ほゞ毎月一回の山歩きを楽しんでいます。年末には特別バージョンとして十名でオーストラリアの南のタスマニア島オーバーランドトラックを縦走し、最高峰に登頂して来ました。

「三七ゴルフ会」は春と秋のコンペ中心に多数の参加を得ています。「三七旅行の会」は、夏に佐渡と北信濃へ二泊三日の「熟年修学旅行」に行きました。

この他、冬には「三七スキークラブ合宿」を、夏には「三七海の会」を開催して、旧交を温め懇親を深めています。

サークル活動では「三七卓球の会」と「三七囲碁の会」とが、月一～二回コミュニティーセンターや会員宅で体を動かし、頭を鍛えています。「三七釣友会」は海釣りを楽しみ、「三七ヨットの会」「三七カヌーの会」は、航行を楽しみました。

「三七映画を観る会」は名画を何回か鑑賞し、懇話しました。

お互いの連絡は、池田ＹＩＣが管理する各サークルのＭＬを通じてネットを構築しています。

二〇〇六年忘年会で今年の活動のまとめをしました。

●昭和四十年定時制卒

ＯＳＢ会幹事長　谷中勝美

昭和36年入学時に1年Ｂ組だった仲間でクラス会（ＯＳＢ会と称す）を作り、15回目を開催しました。今年は3月5、6日と始めて一泊で行ないました。中央バスのツアーを利用して土肥温泉（宿泊／桂川シーサイドホテル）へ行って来ました。参加者は7名と少なかったのですが（内女子2名）箱根、芦ノ湖、河津方面を周って大変有意義な旅でした。

夜の宴会では、カラオケ大会、また深夜まで皆んなで語り合い近況報告など交流を深める事も出来ました。

また、来年も一泊で参加者を増やして行なう事を確認する旅でもありました。

平成18年11月1日記

●昭和四十四年卒

森　茂

『処世術と適応』

社会人としての生活と「処世術」は、切っても切れない関係にあります。

四捨五入すると60才。このいくつめかの一里塚を前にして、自分の考え

や思いを、古今の叡智によって、時々整理してみることがあります。

人の世を省みて、ドイツの哲学者ジンメルの言葉、『至上の処世術は、妥協することなく適応することである。』

また、生物の進化を研究したダーウィンは、「『生き残る種とは、変化に最もよく適応したものである』と。

いろいろな考えの人がいるという状態（＝多様性）こそ、変化への適応を可能にする条件なのかも知れませんが、そのことを認めた上で、「少しでも浮世を明るくするために、身近な一歩からの努力をあきらめない！」

適応力の衰えた固い頭で、こんな小ぶりの処世の決意を、改めてしてみたところです。

※第四回同期会は、私達が還暦！となる2011年2月です。同窓会総会の当番学年でもあります。予定表にご記入下さい。

（2006・12・14記）

●昭和五十年卒

園部　創

我が学年は平成19年秋に同窓会開催を予定している。前回開催から五年経った。全員が五十歳を超えての再会となる。孔子はすでに三十にして立ち、五十にして天命を知ってしまったが、「改革」の名の元に加速度を増したリストラの影響を受けている我々中高年にとって、五十にして改めて立つことになった者も多い。50歳で改めて自分を見つめ直し、新たな自己実現のための自分マーケティングをやってみる、そんな年代になった。トム・ハンクスやデビッド・カッパーフィールド達同級生？がバリバリの現役で頑張っているのを見ると、「人生五十年」と謡い舞って散った信長に代わり、人生80年時代をどう生きるのか、秋の同窓会でいろいろ語り合ってみたいと思う次第。老いて益々元気な諸先輩方に負けない、楽しく盛大な同窓会になるものと思われる。

●昭和六十一年卒

増田　淳

ロンドンのサヴォイホテルのバーで一昨年、卒業以来の同級生と再会した話を前に書いた。

今年の7月、梅雨晴れの袖ヶ浦市営球場。高校野球県予選、初戦は対津田沼校戦でのひとコマである。

この上なく奮闘したが、よもやの敗戦、まさにその瞬間。右斜め前の席から見覚えのある顔が振り返り、お互いを凝視する。

「・・・。」再会の喜びが、言葉にならない。

ロンドンでの再会から一年の時を経て、平日の午前中、後輩が戦う野球場での再会。そんな縁もある。

その夜、お互い日射病気味の頭を抱えながら、千葉市内のバーへ。夜明けには日本を発つというその旧友と、英国時代に愛飲したカクテル、ギムレットで乾杯した。

支部だより

☆東京葛城会

会長　中村浩紹（昭和二十九年卒）

「論談親議」を伝統あるモットーとする当会は、年三回の幹事会を開催いたします。毎回二十数名が出席し、会行事の協議をした後、多士済々の幹事諸兄姉全員が日頃の近況報告・所感表明・在学時代のエピソードなどを披露する場としてとても賑やかな集いでもあります。

第四十七回総会・懇親会は、平成十八年十月十九日（木曜日）恒例の上野精養軒にて開催されました。午後六時開場後一時間を名刺交換タイムとして参加者の交流の場とし、その間、用意された母校の新旧の映像ビデオを映写し、懐古の想いに浸ることが出来ました。開宴は、午後七時からとなり、昭和四十七年卒の皆さんが各テーブルに配置されてホスト役を勤めてくれた

のが新しい試みで好評でした。

司会は、大野淳君が担当し、開会冒頭、わざわざ奈良市から駆けつけてくれた寮美千子さん（昭和四十九年卒・泉鏡花文学賞受賞者）が、自作の詩集「遠くを見たい　星の贈り物」を詩情あふれる映像を交えて朗読してくださり、会場が一瞬静寂の世界に引き込まれました。

来賓の大野学校長、霜同窓会長の挨拶を頂き、畑山先生のご紹介の後、鈴木定雄幹事（昭和二十五年卒）の発声により乾杯、歓談に入りました。

アトラクションは、ボリショイの歌姫・オペラ歌手川副千尋さん（昭和五十四年卒）による歌唱指導で、一三〇余名の出席者全員が「ふるさと」の発声にチャレンジし和気あいあいの雰囲気が醸成され、時の経つのを忘れさせてくれました。

最後に斎藤喜久三幹事と宮崎勝弘幹事の指揮で千葉中・千葉高校歌の合唱で盛り上げ、次年度担当幹事藤川尚文君の閉会の言葉で楽しい思い出を残しながら散会いたしました。

第四十八回総会・懇親会は、平成十九年十月十八日（木曜日）に上野精養軒にて開催いたしますので、多数の同窓諸兄姉の参加をお待ちいたします。

平成十九年の幹事会は次の日時に同会場で開催します。

四月十八日　午後六時三十分
十月十日　午後六時三十分
十二月十二日　午後六時

☆船橋葛城会

世話人　蛭田　隆（昭和三十六年卒）

平成十八年の当会の活動は、五月の「第二十八回船橋葛城会」の開催とその前後五回の世話人会でのコミュニケーションが中心です。この〝世話人〟という呼び方もユニークで当会の特色の一つかも知れません。

さて、今年の葛城会はアトラクションに〝尺八合奏団〟を招聘し、尺八による現代音楽演奏を楽しみましたが、参加者の減少傾向は止め難く、遂に九十名を切る状況になりました。何とか昭和四十年代卒業世代の増強をせねばならないところです。

また、十月には前会長の千吉良護さんが急逝されました。人一倍当会の運営に心配りをされてきた方であり、本当に残念です。来年一月に「偲ぶ会」開催を先の世話人会で決めました。

☆長生茂原葛城会

常泉吉朗（昭和二十六年卒）

第五十一回長生茂原葛城会を十八年十月七日当地「一茂」にて開きました。本部より岩澤先生の御出席を頂きました。昭和十一年卒の向井大先輩を筆頭に二十年台から三十年台卒の十五名が参加致しました。岩澤先生より母校の近況などお話し頂いた後、向井先輩の発声で乾杯し懇談に入りました。色々と話が弾み盛会でした。

最後に新旧校歌を歌って散会となりました。終わってみて参加者がせめて二十名台にならないかと思い又このところ女性の参加のないことが残念でした。今後も皆様のご協力をうけて会の運営に努めたいと考えております。

☆成田葛城会

支部長　真鍋　溥（昭和三十一年卒）

平成18年度成田葛城会総会は11月14日ひかたや第二支店にて開催されました。今年は市町村合併があり地域が広がりましたので、此の際近隣の富里市、栄町、本埜村、印旛村にも声をかけ、住所は別でも成田で勤務されている方、入会を希望される方にも入って頂き、大変和やかな会でした。後日新しく入会された宮原さんが今回の会の小アルバムを作って下さいましたので集合写真を載せさせて頂きました。入会漏れ、入会希望が御座いましたら御一報下さい。

真鍋　溥
成田市橋賀台一―十五―四
TEL０４７６（２７）３５３５
FAX０４７６（２８）６４７７

☆東金葛城会

岸本雅邦（昭和三十九年卒）

第二八回東金葛城会の総会は平成十八年四月一日に東金八鶴亭にて霜禮二郎同窓会長をお

千葉県立千葉高等学校同窓会　成田葛城会　第四回総会

前列左から　宮原　曉（30）　真鍋　溥（31）　渡辺義男（18）　日置晴久（27）　高田春男（29）
藤倉國男（40）　笠井精一（35）　諸岡孝昭（36）　佐久間　健（31）　石川江巳（31）
三橋弥生（53）　岩下豊久（42）　寺本敬彦（33）　松田徹之（39）　佐久間将夫（32）　行方宏夫（38）
鶴岡国二（39）　三枝　修（39）　高橋秀勝（39）　藤井大介（53）　（括弧内は卒業年）　敬称略

迎えして開催されました。当日は十九名の会員の皆様に出席をいただき、恒例となっております八鶴湖の夜桜、花火大会、湖畔ライトアップ等東金の花見をたっぷり楽しんで有意義な時を過ごす事が出来ました。東金葛城会の状況ですが学区の関係で同窓生のいない年代があり、又会員の高齢化に伴い年々会員数が減少しちょっぴりさみしい総会をむかえる事があります。

幹事としては現在の名簿を会員にお送りし同年代の方で名簿漏れを発見してもらい会員の充実を計りたいと思います。

当会の宍倉実会長（昭和二十七年卒）が平成十八年八月にご逝去され現在会長が不在ですが次期新会長と知恵をしぼりながら会の発展に力をつくそうと思います。なお十九年の四月七日に東金葛城会を開催する予定です。

☆養信会（市原葛城会）

中村好成（昭和三十四年卒）

平成十八年六月三日、五井グランドホテルに、54名という多数の同窓生にご参加頂き、盛大に養信会を開催できました。

席上、五井で眼科医を開業しておられます、斉藤博氏（昭和21年卒）の長年の力作「街道と宿場」が披露されました。〝見た、聴いた、撮った〟という、氏の消え行く街道への思いが伝わる作品です。

なお、役員が交代し、会長に鈴木雅博氏（昭和33年卒）、代表幹事に土岐紘史氏（昭和35年卒）に、それぞれ変わりました。

☆佐倉葛城会

花村満博（昭和三十九年卒）

平成十八年度第五回佐倉葛城会は、今年度は大野敬三校長先生と霜礼次郎同窓会会長のご臨席を賜り、平成十八年四月二日ホテルリッチタイムにて三十二名の会員の皆様の出席のもとに開催する事が出来ました。その後の懇親会に於いては始めに三十三年卒阿部三樹会員による印旛沼「地図ノート」をテキストに印旛沼の地図について大変有意義な講演をお聞かせ頂き、会員の皆様との質疑応答も活発に行われました。

尚、当日は成田葛城会真鍋溥会長と共に幹事四名の方がゲストとして参加して下さいました。是を機に佐倉と成田の交流をより深め周辺郡市の卒業生の皆様にもさらに一層輪を拡げ佐倉葛城会としての活動を活発に行っていく所存です。

葛城だより

◎平成十八年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝重光章　毛利秀雄（昭23）
瑞宝双光章　大野　皎（昭26）
旭日重光章　鳥海　巖（昭26）
瑞宝小綬章　小林彬宏（昭29）
瑞宝小綬章　中　進士（昭29）
旭日中綬章　綿貫弘一（昭30）
瑞宝中綬章　根本好教（昭30）
瑞宝中綬章　堀内純夫（昭30）
瑞宝小綬章　小高正己（昭30）

◎逝去者

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

清水　俊（昭9）
平成19年1月2日

山崎　平（昭15）
平成18年4月23日

鴫原良樹（昭15）
平成18年4月12日

飯豊周二（昭16）
平成18年12月2日

宍倉　實（昭27）
平成18年8月19日

千吉良　護（昭29）
平成18年10月18日

阿波道一（昭33定）
平成18年9月30日

安西七郎（恩師）
平成18年9月8日

〈敬称略・卒業年順〉

平成十八年十二月二日、前同窓会長飯豊周二様が逝去されました。ここに霜会長の弔辞を載せ心よりご冥福をお祈り申し上げます。

弔辞

飯豊周二先輩の突然の訃報に接し、今、千葉高同窓生は茫然自失――今後の目標を失い、ただ、ひたすらに、先輩の偉大さと前同窓会会長としての、その偉大なる業績を省みている所であります。

ついこの間お会いした時には、大変お元気で、今後の同窓会の在り方等、いろいろご相談いたしましたら、てきぱきとご指示を下さいました。

まさかこのような事態を迎えるとは、予想だにしませんでした。

飯豊先輩は、千葉市内で老舗の御曹司として、飯豊商会を統括され、盛大に発展を続けてこられました。特に戦後、千葉市の復興にあたり、政・財界のリーダーとして、卓越せるその手腕は我々同窓生の誇りとする所でありました。

同時に、スポーツ・文化面にもご理解を示され、千葉市がバランスのとれた都市として、日本でも模範的なものとなり、政令指定都市に発展してまいりました。

これは、飯豊先輩の指導力の賜であり、一市民としても心から感謝を申し上げます。

さて千葉高は、千葉県はもとより日本でも最も古い学校です。

百二十五周年の記念事業にあたり、今までに無い、同窓会独自の事業として立派にその使命を果たす事ができましたのも、飯豊先輩のご指導があってこそ、可能でありました。

今後、我が母校、千葉高は、中・高一貫教育のモデル校として、新しく発足する事になりました。おそらく、これまでの伝統の上に新しい教育感覚で、千葉県の教育界をリードして行く事が予想されます。

私達残された同窓生は、今後の千葉高の発展と同窓会の更なる発展充実に向けて、一所懸命に頑張り、先輩の築かれたご恩に報いる覚悟でございます。

永い間の多方面に亘るご指導に感謝し、永遠に飯豊周二先輩のご遺徳を継承してまいります。

どうか、天の上からお守り下さい。

それでは飯豊先輩 さようなら安らかにお眠り下さい。

平成十八年十二月十八日

県立千葉高等学校
同窓会会長　霜　礼次郎

2003年8月於千葉高校

創立百二十五周年記念事業や同窓会に多大なご寄付や絵画を賜りました清水俊氏（昭和9年卒）が一月二日にご逝去されました。

茲に謹んでご報告しご冥福をお祈り致します。

編集後記

同窓会員の皆様、お変わりありませんか。今年度も多くの原稿、そして写真をありがとうございました。一月二十日に理事会が終了し、二月三日の総会・懇親会の準備に入りました。その幹事は毎年、還暦を迎えた先輩の皆様に担当していただく習わしで、今回は昭和40年卒業の方々です。どうぞよろしくお願い申し上げます。（五木田）